



水土里情報を活用した作付状況のとりまとめ事例について紹介します。

(1/2)

今回紹介する団体：水土里ネット青森
中泊地域担い手育成総合支援協議会
(中泊町、津軽広域農業共済、十三湖土地改良区等)

取組概要

内容：中泊町農政課が毎年実施している戸別所得補償のための作付状況の取りまとめにおいて、水土里情報システムを活用し転作作物作付図を作成。協議会の関係機関と情報を共有。

経緯：①平成13年頃から土地改良区独自のGISシステムを利用して転作作物作付図を作成し関係機関に情報提供を行ってきたが、土地改良区の受益地が町の農地全域をカバーしていないため、手作業による図面の作成作業が必要だった。

②平成23年度から作付状況の取りまとめに水土里情報システムを利用。町の農地全域をカバーし、かつ航空写真や地形図も活用可能となり、事務作業が簡素化。町が中心になって、作付状況のデータを入力し、図面を作成して関係機関と共有。



平成24年 転作作物作付図の例

期待される効果

- ① 水土里情報システムを活用することにより、町全域の転作作物作付図を作成できるようになったため、転作対象農地の所有者、耕作者や作付け地の確認等が容易となり、事務の縮減・簡素化に寄与。
- ② 農業共済組合では、転作作付図を基に航空防除の散布範囲や飛行ルート of 決定などの計画作成にあたり、効率化が可能。

今後の活用予定

- ① 平成24年度、中泊町は人・農地プラン作成にあたり、水土里情報システムを農地利用図の作成や経営体毎の面積集計等に活用する予定。
- ② 十三湖土地改良区は、ほ場整備計画策定にあたり、GPS端末を活用し、用排水路等の現地情報や現況写真を地図情報に取り込んで整理することを検討中。

The image displays a multi-windowed desktop environment. The top window is a web browser showing a GIS application with a map of agricultural land. The middle window is a PDF viewer showing a document titled '施設の状況' (Facility Status) with a table of drainage facilities. The bottom window is a photo editor showing a photograph of a drainage ditch in a field.

施設名	① 支線排水路3の1
造成年・事業名	昭和43年に国営十三湖干拓建設事業で造成された水路である。
構造・規模	構造:素掘 延長L=530m 上幅3m
補修経歴・要整備箇所	大規模改修は無し
維持管理状況	土地改良区が支線排水路3の1を直轄で管理、支線排水路を家が管理。年に2回、関係農家で排水路の肥あが、草刈りを行っている。
課題・問題点	支線排水路3の1(NO49.64)は造成後43年を経過して、地盤下、法面崩壊が目立ってきており、流水を阻害する堆砂あり、持管理に大きな障害を起している。このため管理の省力化適切な水管理の必要性から早急に整備する必要がある。土砂堆積による排水不良が起きている。降雨時には農地へ冠水がおこる。そのため農地・水保全対策事業により主要水毎年実施済み、草刈り等を実施したが、機能的な排水不良のた改修が必要。水田の暗渠工は未整備であり、用排水路(NO48.54.60.62)に備であるため、流水に問題があり、ほ場整備が必要である。

用排水路の現地調査にGPS端末を活用し、水土里情報システムにデータを取り込み後の表示イメージ

■お問い合わせ先

青森県土地改良事業団体連合会 水土里情報業務推進部

017-723-2406

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(横田、柳川)

03-6744-2201(直通)